



福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



Photo by S. ISHIDA 2003.2.15 福井市鷹巣海岸

福井の自然史情報 越前海岸のウミウシ(1)

クロヘリアメフラシ

Aplysia parvula

ほんしゅう みなみ うみ はるさき かい た おお
本州より南の海で見られます。春先に海そうをもりもり食べて大きくなります。

アメフラシのなかまはせなか ちい から
アフラシのなかまは背中に小さくてうすぺらい殻をもっています。

から
殻はほとんどからだにうもれていますが、この写真ではそれが見えています。

さて、どれがからかわかりますか？



答え：せなかに見えるピンクの部分が殻です。

「絶滅危惧水田雑草」の保全生物学と水田雑草の分布状況から見た福井市の自然環境評価

学芸員(非常勤)植物担当 赤井 賢成

水田雑草は、水田の他にあぜや水路に発生する雑草の総称で約200種が知られています。やっかいな代物として駆除されてきた水田雑草ですが、それらの中には今や絶滅が心配されるほど減少してしまった種もたくさんあります。最近発行された福井県版レッドデータブック(植物編)に記載された水田雑草は、デンジソウ、オオアカウキクサ、アブノメ、カワヂシャ、スズメハコベ、シソクサ、トリゲモ類など約40種に上り、その多くは全国的に減少が指摘されている種です。

これらの絶滅の恐れがある水田雑草(以下、ここでは「絶滅危惧水田雑草」と呼びます)が減少した理由としては、一般的に除草剤、施肥による過度の富栄養化やほ場整備による生育地の破壊・画一化・乾田化などの影響が考えられますが、環境条件が変化してもおう盛に繁茂し続ける種もあり、詳しいことはまだよく解っていません。

現地調査と博物館に収蔵されている標本のデータを元に生育地を解析した結果、福井市

とその周辺には現在でも絶滅危惧水田雑草がcaろうじて生育していることが明らかになりました。また、これらの植物が生育する水田は、大規模なほ場整備が施された沖積平野に位置する水田ではなく、丘陵地の谷津田や海岸付近の海成段丘面に分布する棚田に多い傾向が認められました。水田雑草の種組成は、同じ地域でも除草剤の種類や使用量、施肥、ほ場整備の有無、土壌・地質、水質、立地、田植え・稲刈り・田起こしの時期などによっても変化すると考えられます。加えて、かく乱に対する依存・耐性の程度も種によって異なると考えられることから、各々の種が減少した原因を明らかにし、その原因を軽減させる形で保全を図ることは、たいへん困難と思われます。しかしながら、福井市内にわずかに分布する絶滅危惧水田雑草の生育地が、どのような環境条件を兼ね備えているか、そして、そのような場所で絶滅危惧水田雑草がいかにしたたかに生きているかを研



オオアカウキクサ(福井市小丹生町の水田)

究することで、保全につながるヒントが得られるのではないかと考えています。

今年度は、福井市内の水田を利用形態、立地、ほ場整備の有無からタイプ区分し、代表的な場所で水田雑草の種組成や絶滅危惧水田雑草の生育状況調査を行います。また、それらのデータを地理情報システム(GIS)に取り込み、絶滅危惧水田雑草が生育できる条件の抽出と生息ポテンシャルマップ(ある生物が潜在的に生息可能な範囲を示した地図)の作成を行ったうえで、水田雑草の分布状況から見た福井市の自然環境評価を試みる予定です。

博物館の普及・教育活動 —応援します!「総合的な学習の時間」—

足羽中学校の校外学習に参加して

学芸員(昆虫担当) 佐藤 友香

去る5月27日、文殊山山麓にて、博物館の学校教育への協力の一環として、足羽中学校1年生の校外学習で野外観察の出前講座を行いました。事前に担当の先生方と打合せを行い、学校が設定した「文殊山の植物」「文殊山の昆虫」というテーマで、当館の赤井・佐藤の両学芸員が班ごとに30分間の解説と観察を行いました。生徒さんは学習内容を各自新聞にまとめるのですが、野外で実際の生き物を前に解説を聴き、写真を撮ることもできるのがプログラムの大きな魅力です。今回は生徒さんが携行する教材にも工夫を凝らし、A4サイズのラミネートシートで植物&昆虫の特製カラー下敷きを製

作して全員に配布しました。万一の雨にも強く、見た目もきれいで内容も充実したものができたと思います。

具体的な授業の内容としては、昆虫編では花と昆虫の共生関係、昆虫の生活史と環境というテーマでそれぞれアザミとアゲハ蝶の仲間、トンボの仲間をとりあげて解説を行いました。昆虫の場合、天候等により説明時に必ず飛来してくれるとは限らないので、事前に現地で標本を採取し、生徒達に見せられるよう備えておきました。当日は天気も良く、実際にチョウが採餌をする様子を観察したり、いくつかの種類のトンボを捕まえてみたりするこ

とができて良かったと思います。生徒さんのできあがった新聞を見せてもらうのが楽しみです。

今回は授業内容をこちらで準備しましたが、今後は事前に先生方ともしっかり相談しながら一緒に内容や教材を考えたり、先生方自身が野外で解説できるように授業の進め方を具体的にアドバイスするなどの工夫が必要と感じました。これからも学校の総合的な学習の取り組みに積極的に協力していきたいと思っています。



文殊山の昆虫



文殊山の植物

学校の先生方へ

博物館では学校の「総合的な学習」の取り組みに対し、博物館が有する人的・物的資源を活かした支援を行いたいと考えています。

例えばこんなお手伝いができます…

- (1) 展示を使った授業をしたい……常設展、特別展、収蔵資料の開示や解説
- (2) 博物館の設備を使った授業をしたい…実習室やレクチャーホールの貸し出し
- (3) 自分で調べてみる授業をしたい……自然史に関する調べもののお手伝い
- (4) 面白い授業をしたい……教員を対象とした総合学習の授業提案や講座
- (5) 学芸員を活かした授業をしたい……教員と連携した授業案作成や学芸員派遣

何かアイデアはありますか?まずはご相談ください。教員の皆さんと学芸員とのディスカッションを通して、博物館としてできることを応援していきたいと思っています。

博物館「友の会」が誕生します！

福井市自然史博物館に「友の会」が誕生します。「友の会」では、会員を対象とした自然観察会や講習会といった独自のプログラムを積極的に開催していきます。自然史に興味のある方ならどなたでも入会できます。あなたも会員になって仲間を増やし、自然と本当の友達になってみませんか。会員になると次のような特典があります。

- 博物館の入館料が無料となります。
- 友の会主催行事、会員のための講習会などに参加できます。
- 博物館主催行事の中に優先的に参加できるものがあります。
- 博物館発行「博物館だより」や催し物などの案内が届きます。



海の生き物観察会



藤倉山のブナ林

会員の種別と年会費 ● 正 会 員……1,000円
家族会員……1,500円
学生会員(高校生以上)……500円

入会の方法 ● 博物館の受付に入会申込書があります。遠方の方はFAX番号をご連絡いただくか、電話もしくは葉書で下記の住所宛に入会申込書をご請求ください。また入会申込書はホームページからもダウンロードできます。

お問い合わせ ● 福井市自然史博物館内 友の会事務局まで

自然史の新作図書

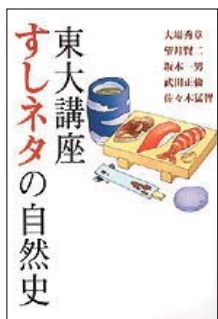
「闘蟋 中国のコオロギ文化」



瀬川千秋/著 大修館書店 2002年10月発行
価格 各1,890円(税込) ISBN 4-469-23185-1

中国には闘蟋(とうしつ)という、コオロギの雄どうしを戦わせる遊びが古くからあります。著者は中国に通い、その道の老師に弟子入りするというフィールドワークにより、その風俗を臨場感たっぷりに描きます。採集、飼育、トレーニング、果てはドーピングに至る、中国の男達の培ってきたマニュアル群。近代科学とはまた違った、コオロギの生態への深い洞察です。自然史本としても読みごたえありの一冊(石田)。

「すしネタの自然史」



日本放送出版協会 2003年11月発行
価格 各1,575円(税込) ISBN 4-14-080827-6

鰻の体温は水温より高くなんと35℃！タカアシガニの寿命は34年！養殖と天然の平目は裏で区別できる！ボタンエビの大半は実はトヤマエビ！日本産エチゼンガニはアメリカ産より足が長い！シャコの奥深い母性愛！など、すしネタを…ネタにしたシュールな自然史情報が満載です。本書を片手に暖簾をくぐれば板前さんも真っ青!? (赤井)。

新任教員のご紹介



主 任 五十嵐 千鳥 (いがらしちどり)

この四月に異動になり、事務を担当します。子供が小学生の頃、よく植物や昆虫の名前を聞きに来たことを懐かしく思い出しました。学芸員さんとともに常に「市民の博物館」でありたいと思います。

学芸員(昆虫担当) 佐藤 友香 (さとう ゆか)

学生時代はレプンアツモリソウとマルハナバチの採餌を研究していました。昆虫の分類や生態に関してはまだまだこれからです。皆さんの力をお借りすることも多いと思います。宜しくお願いいたします。



学芸員(非常勤・植物担当) 赤井 賢成 (あかいけんせい)

休日には、愛車リトルカブで福井県内を駆け回り、調査と植物採集に励んでいます。フィールドでタオルを首に巻き長靴を履いて植物採集しているダンディな人がいたらそれは私です。気軽に声をかけてくださいね。

受付・案内(非常勤) 奥村 里美 (おくむらさとみ)

この四月から、博物館の受付に座っています。これから博物館での作業を通じて、自然に関する知識を増やしていけたらいいな、と思っています。よろしくお願い致します。



博物館ボランティア募集のご案内

福井市自然史博物館では、調査研究、標本資料の収集保管、普及教育、展示・解説といった博物館の様々な活動に協力していただけるボランティアスタッフを募集いたします。

現在、募集している内容は次のとおりです。

学芸員のフィールド調査時の補助スタッフ(植物・昆虫分野)

野外調査の際に、野帳への記録、標本採集、植物標本の仮押し、写真撮影などを手伝ってください。



仮押しの作業

哺乳類の骨格標本の作製(10月頃から)

ネズミ類、コウモリやタヌキなど小～中型哺乳類の除肉と骨のクリーニングなどを手伝ってください。

自然観察会など博物館行事の補助スタッフ

子どもたちへの指導補助と安全確保にご協力ください(毎月1～2回程度)。



植物標本の台紙貼りの作業

植物・昆虫標本の作製と整理

野外で採集した昆虫の展翅・展脚(翅や脚を固定すること)、データ入力、ラベル付け、植物標本の整形・乾燥や台紙への貼付などを手伝ってください。

手順は学芸員が丁寧に指導します。特に動植物の名前を覚えたい方にはオススメです。自然が好きの方、自然史に興味がある方、将来学芸員を目指している方、環境教育に関心がある方、われわれ学芸員といっしょに博物館の活動に携わってみませんか？休館日以外であれば、来館していただく日時は問いません。数時間でも半日でも、みなさまの時間の許す範囲でよろしくお願い致します。

《対 象》● 博物館の活動に関心がある一般の方
(高校生以上)

《お問い合わせ》● 福井市自然史博物館
学芸員: 石田(動物)、佐藤(昆虫)、赤井(植物)まで

※活動に対する報酬や交通費・食費の支給はありませんので、ご理解を賜りますようお願いいたします。万一の事故等にそなえ、博物館の負担でボランティア保険に加入します。

2004年 夏の特別展

7/21~9/26

どうぶつたちのプロポーズ大作戦!!

なぜオスにはツノがあるの？
なぜオスはハデなの？

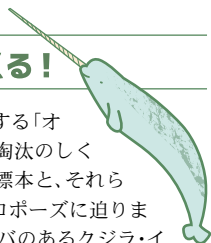
たとえばクワガタやシカのオスは、大きなあごやツノをもっています。鳥や魚のオスは、とても派手なからだをしています。秋の虫やカエルの美しい鳴きごえもまた、たいていはオスのものです。このような性によるからだつきや行動のちがいは、なぜいろんな動物で共通するのでしょうか？この「法則」は今から130年前に進化論を提唱したかのダーウィンが、「性淘汰(せいとうた)」という進化のしくみで説明し、以来おおくの生物学者の興味をひきつけてきました。



クジャク

牙をもつクジラ・イッカクがやってくる!

今回の特別展では、オスのツノや派手さが進化する「オスどうしのたたかい」や「メスの好み」といった性淘汰のしくみをわかりやすく解説します。さまざまな動物の標本と、それらが実際に行動する映像により、どうぶつたちのプロポーズに迫ります。千葉県立中央博物館分館・海の博物館所蔵のキバのあるクジラ・イッカクの雌雄全身骨格標本(西日本初公開)、我孫子市鳥の博物館所蔵のインドクジャク雌雄剥製標本、大阪市立自然史博物館所蔵の日本産シオマネキ類浸漬標本などの貴重な典型的事例の資料を展示します。



展示内容のご紹介

● オスはオスとたたかう

「腕っぶしの強さ」ミドリシジミ類、カニ、キタゾウアザラシの映像、「ごじまんのキバとツノ」シカ、クワガタムシ、カブトムシの標本展示、「そもそもなぜオスとメスがいるの？」ブラインシュリンプ、マイマイの標本・生体展示、「なぜ闘うのか？性淘汰のしくみ」解説パネル、「性転換という生き方」マムシグサの標本・パネル展示、クマノミの生体展示、「オスどうしの闘いを利用した遊び」沖縄の闘牛、中国の闘コオロギ、闘鶏の映像など



ノコギリクワガタ

● メスはオスをえらぶ

「わかりやすい女心」ガガンボモドキ、セッカの標本展示、「歌って踊ってなぜモテる？」シオマネキ、モズ、ゲンジボタル、カワトンボ、モンキチョウの標本展示他、「ハデハデなオス」オウフウチョウ、カモ、モルフォチョウ、グッピーの標本・生体展示、「わかりにくい女心を説明する理論」インドクジャク剥製展示、「鳴き声を聞いてみよう」カエル(7月)、鳥(8月)、秋の虫(9月)など



オシドリ

● さて、ヒトの場合は・・・

「あなたが異性に求めるもの」投票コーナー

● C.ダーウィン コーナー

年表、「種の起源」に始まる進化論、「性淘汰」理論を生み出した観察眼、著書「THE DESCENT OF MAN(初版)」展示

● イッカク コーナー

「キバのあるクジラ・イッカク」イッカク雌雄骨格標本展示、骨格標本(オス)と同一サイズのペーパークラフト

普及講演会

「雄と雌の葛藤と協力」



性淘汰理論の世界的研究者である早稲田大学の長谷川真理子さんをお招きして、この分野の研究の面白さと奥深さを語っていただきます。

日時:8月15日(日) 午後2時~3時30分
場所:自然史博物館レクチャーホール
申し込みは不要。当日は入館料無料。

「イッカクの骨格標本組立作業の一般公開」

展示に先立ち、イッカクの骨格標本の組立作業の様子を一般公開します。骨格のつくりやそれぞれの役割などを解説します。

日時:7月11日(日) 午前10時~11時
場所:自然史博物館玄関ホール 申し込みは不要。入館料100円



撮影:村田明久(千葉県立中央博物館分館・海の博物館)

イッカクの骨格標本

《あとがき》

博物館の情報誌「博物館だより」がリニューアルしました。これまで年2回発行でしたが、この号から年4回発行とし、カラー化を図りました。市民の皆様は、福井の新しい自然情報をよりわかりやすい形でお届けしていきたいと存じます。誌面にこんなコーナーがほしい、こんな情報を提供してほしいなどといったご意見・ご要望がございましたら、ぜひ気軽に博物館までご連絡ください。



《交通案内》

【電車】

福井鉄道福武線 公園口駅

【バス】

京福バス赤十字病院線(72号系統) 公園下バス停
コミュニティバスすまいる:西ルート(足羽・照手方面)
愛宕坂バス停 いずれも徒歩10分です。

【徒歩】

JR福井駅から徒歩30分

《ご利用案内》

開館時間 ● 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 ● 月曜日(祝日は開館)、国民の祝日の翌日、
年末年始
入館料 ● おとな100円(20名以上の団体は半額)

